



「国体で表彰台に立ちたい」と決意を胸に操船技術向上に励む小成海舞（県立大宮古短期大学部）＝宮古湾

セーリング成年女子の小成海舞（18）は今春、古里の海で競技を続けるため、県立大宮古短期大学部に入學した。昨年8月の近畿インターハイでは、女子FJ級で優勝を狙ったが6位入賞。高校時代の悔しさを胸に、震災から再建したリアスハーバー宮古を拠点に練習に励んでいる。

宮古商高3年時の近畿インターハイ。第2レース、着艇の申告ミスで点数を落としたことが、後のレースに響き頂点を逃した。

コーチと交わしたインターハイ優勝の約束を果たせず、国体で活躍したいとの思いが根底にある。

岩手国体では1人乗りのレーザージャシアル級での出場を目指し、毎週土日に宮古湾で練習に励む。「自分のセーリングはまだ完成して

小成 海舞 セーリング成年女子 復興へ進む姿見せる

いない」と語り、精神力、風を読む力、操船技術の向上を課題に挙げる。

練習拠点のリアスハーバーは、東日本大震災で被災した。ヨット部入部を考え始めた中学3年の夏に訪れたハーバーの艇庫は、柱しか残っていなかった。

それでも震災から5年が経過し、全国からヨットや救命胴衣などの支援を受け、競技環境は整った。地元国体は復興に向かって進む姿を発信する絶好の機会だ。

小成は「競技ができるのは支援をいただいた人のおかげ」と感謝し、「国体で表彰台に立ちたい。内陸から来た人、海に関わったことがない人、多くの人にヨットを知ってもらいたい」と大会本番を心待ちにする。